

2 研究の実際

(1) 県調査の結果を基にした実態調査とその分析

「平成 26、27 年度佐賀県小・中学校学習状況調査 [12 月調査] Web 報告書」によると、中学校社会の評価の観点別正答率は図 1、2 のように示されています。

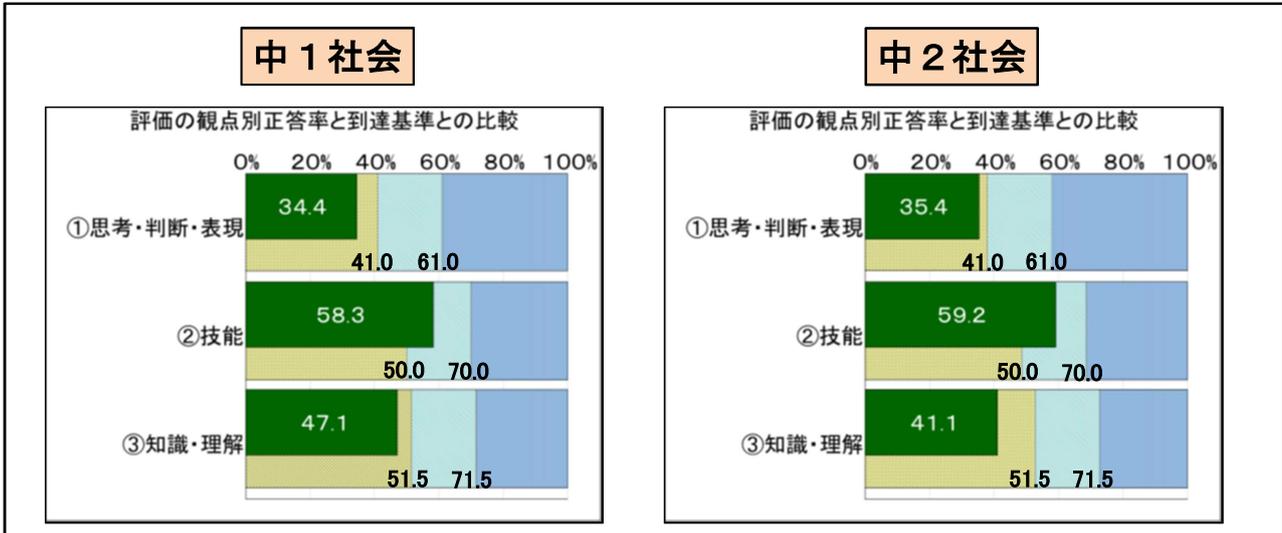


図 1 平成 26 年度佐賀県小・中学校学習状況調査 [12 月調査] 中学校社会の評価の観点別正答率

中学 1 年生、中学 2 年生共に評価の観点「社会的な思考・判断・表現」「社会的な事象についての知識・理解」において、「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られます。

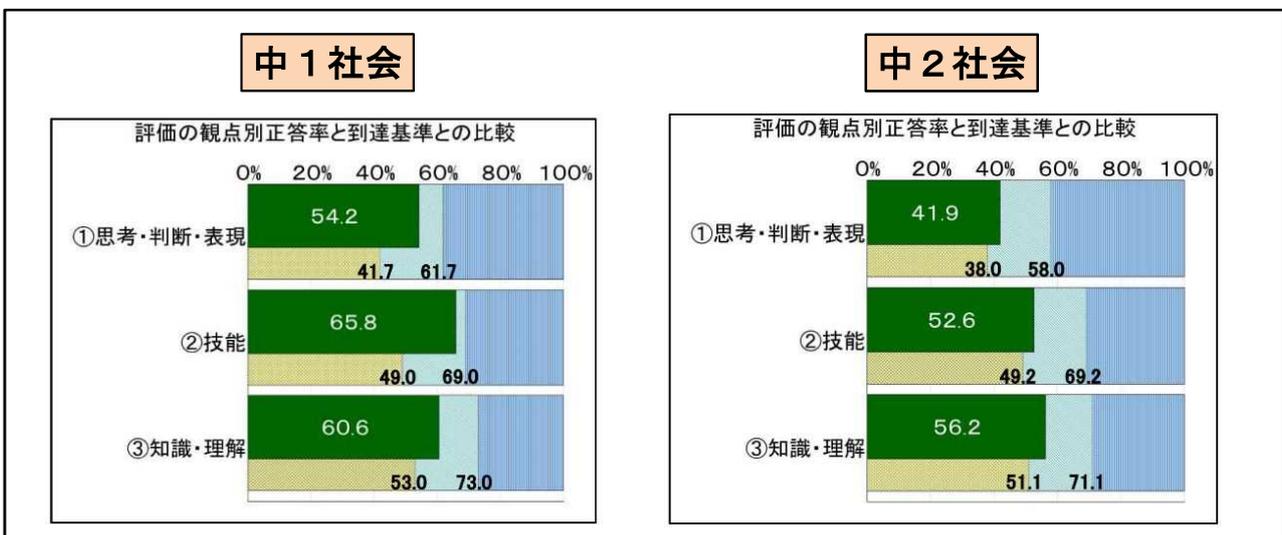


図 2 平成 27 年度佐賀県小・中学校学習状況調査 [12 月調査] 中学校社会の評価の観点別正答率

中学 1 年生、中学 2 年生共に全ての評価の観点で「おおむね達成」の基準を上回っていますが、「社会的な思考・判断・表現」の正答率が、他の観点と比べて低くなっています。

また、Web 報告書には、資料から適切な情報を読み取ったり社会的な事象の意味や意義を解釈したりしたことを、条件に合わせて説明することに課題が見られるとし、社会的な思考力・判断力・表現力を育成するとともに、基礎的・基本的な知識や概念を身に付けさせ、学習内容の理解や認識の

深まりを図ることについて、その必要性が繰り返し述べられています。つまり、目的に応じて資料から必要な情報を読み取り、条件に合わせて根拠と理由を記述する問題に課題が見られる傾向があります。

以上のことから、県調査から見られる中学校社会科において解決すべき課題を以下のように整理しました。

中学校社会科において解決すべき課題

- ・ 資料から読み取った情報を基に、社会的事象の意味、意義を解釈したり、事象の特色や事象間の関連を説明したりするなど、言語を使って考え、判断し、表現すること
【社会的な思考・判断・表現】
- ・ 社会的事象についての基礎的・基本的な知識や概念を身に付けること
【社会的事象についての知識・理解】

これらの課題を解決するためには、次の2つの力を育てるよう授業を改善していく必要があると考えます。

課題の解決に向けて必要な力

- ・ もっている知識や調べて分かったことを活用して、社会的事象の意味、意義を多面的・多角的に考え、説明したり論述したりする力
【社会科における思考力・判断力・表現力】
- ・ 基礎的・基本的な知識を身に付けながら、社会的事象の意味、意義を理解する力
【社会科における知識を身に付け、理解する力】

また、生徒の実態をより詳しく把握するために実態調査を実施し、誤答傾向を分析し授業改善に生かすことも考えられます。本研究委員会では、県調査を基にした実態調査問題を作成し、生徒の実態を調査しました。

ア 調査目的

実態調査問題の解答を分析し、誤答傾向を考察することで、中学校社会科における授業改善に向けた生徒の実態に応じた課題点を明らかにし、本研究に役立てる。

イ 分析方法

- ① 設問の趣旨、学習指導要領における内容を基に、評価の観点、正答の条件を設定する。
- ② 生徒の解答を基に、誤答を整理した解答類型を作成する。
- ③ 解答類型を基に誤答の傾向を分析し、生徒の課題点を明らかにする。

ウ 実態調査、分析

実態調査の詳細について、一例を示します。なお、調査問題については、問題の著作権等に配慮し、また、分析については、生徒の個人情報に配慮し、一部を掲載しています。

実態調査、分析の例（中学1年生）

・設問の趣旨

インドネシアの雨温図から読み取った熱帯の特色と関連づけて、インドネシアの高床式の住居が床下を高くしてある理由について説明することができる。

・学習指導要領における内容

〔地理的分野〕 内容 (1) 世界の様々な地域 イ 世界各地の人々の生活と環境

世界各地における人々の生活の様子とその変容について、自然及び社会的条件と関連付けて考察させ、世界の人々の生活や環境の多様性を理解させる。

・評価の観点

社会的な思考・判断・表現（活用問題）

・関連する問題

平成25年度【県調査】〔4月調査〕2年 2-(5)

・解答類型（正答欄：◎…本調査での正答）

問題番号	解答類型	正答	反応率
2 (5)	(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 雨温図から読み取れる気候の特徴について記述していること。 ② 床を高くしている理由について適切に記述していること。		
	1 条件①、②を満たして解答しているもの。	◎	57.1
	2 条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの。		4.8
	3 条件②を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの。		28.6
	9 上記以外の解答		4.8
	0 無解答		4.8

解答類型の1～3を見ると、条件を全て満たして正答できた生徒は57.1%です。しかし、資料から一年を通して気温が高いことや降水量が多いことは読み取れていますが、床を高くしている理由を説明していない生徒が4.8%でした。また、床を高くしている理由は説明できていますが、資料から一年を通して気温が高いことや降水量が多いことを示していない生徒が8.6%でした。33.4%の生徒が、どちらか一方の条件しか満たしていませんでした。また、解答類型の9と0は、問われている内容を読み取ることや条件に沿って表現することに困っている生徒で9.6%を占めています。特に、覚えている語句や用語をつなげて説明しようとしています。語句や用語の理解が不十分で使い方に誤りがある生徒や、記述している内容のつながりがなく日本語として適切な表現になっていない生徒が見られました。

他の対象校についても同様の結果が見られました。理由や根拠が不明確で、第三者に分かりやすく説明することができない解答は、十分に理解ができていないと捉えます。よって、この実態調査の結果から、基礎的・基本的な知識や概念を習得し、読み取った情報を関連付けたり総合したりして、調べた事実を基に自分の考えを記述する力を育成することが必要であることが分かりました。

基礎的・基本的な知識や概念を習得させるためには、調べて分かったことや考えたことを整理してまとめさせ、活用させることが大切だと考えます。活用させる場面としては、社会的事象の意味や意義を解釈したり、社会的事象の特色や事象間の関連を説明したり、自分の考えを論述させたりする学習活動が考えられます。また、目的や意図に照らして資料等から必要な情報を集めて読み取る指導も大切です。調べて分かったことや考えたことを整理させる時には、要点をまとめて短い文章で記述するように促すと、自分の言葉で表現しキーワードを使って簡潔にまとめるようになると考えます。

また、読み取った情報を関連付けたり総合したりして、調べた事実を基に自分の考えを記述させるためには、習得した知識や概念を活用させて解釈・説明・論述などの言語活動を展開し、自分の考えを深めたり発展させたりすることが大切だと考えます。本研究委員会では、討論などを通して自分の考えを伝え合い、それぞれが考えたことの基となる根拠を示し理由を付けて説明させることで、いろいろな見方や考え方があることに気付かせるようにします。また、それぞれが考えたことの根拠や理由について、その妥当性や信頼性を吟味して意見を出し合い、多くの人を納得させるような考えへと深めたり発展させたりすることができると考えます。

このようにして把握された課題を解決するために、本研究では、次のような力を身に付けさせる必要があると考えます。

課題の解決に向けて身に付けさせたい力

・言語活動において、資料から読み取った情報を関連づけて説明したり、その情報を基に自分の考えを論述したりする力

【社会科における思考力・判断力・表現力】

・資料を読み取り分かったことや考えたことを、短い文でまとめたりキーワードにして整理したりして、それらを活用して社会的事象について説明する力

【社会科における知識・理解】

これらの力を身に付けさせるには、学習内容につながりをもたせ、習得した知識や概念を活用させて言語活動を充実させることが必要になります。これは、1単位時間の学習で達成できるものではなく、数時間をまとめた単元を通して計画的に指導がなされる必要があり、そのために単元全体の学習を構想しながら授業づくりを行っていくことが大切であると考えます。